

関節疾患手術3000症例 (1998~2014年) 関節・脊椎疾患を総合的に治療

JR戸塚駅前に位置する、いしずえ整形外科のモットーは「高度な医療を地域で実践」。開院以来口コミで評判が広がり、毎月の外来患者数は3200人を超える人気ぶりだ。30年間にわたって関節疾患治療に携わり、3000件を超える人工股関節・膝関節手術の実績をもつ大久保俊彦院長に、治療の特徴をうかがった。



院長 大久保 俊彦

おおくぼ・としひこ / 1983年杏林大学医学部卒業後、日本医科大学麻酔科や横浜市立大学整形外科、横浜市民病院、関東労災病院、横浜南共済病院への勤務、大口東総合病院整形外科部長、西横浜国際総合病院関節外科センター長を経て、いしずえ整形外科を開院。92年に横浜股関節研究会、2007年にNPO法人骨・関節研究会を設立。

腰や肩の痛みを速やかに取り除く

いしずえ整形外科の待合室には、躍動感あふれる「礎」の書が飾られている。「いしずえ」とは、「ここから始める」という意味。私がめざす医療をこの地から発展させたいという想いを、礎の言葉に託しました」と大久保院長は語る。

変形性関節症を中心とする関節疾患から腰痛、五十肩、スポーツ障害

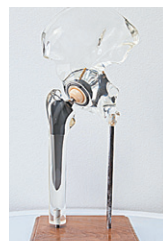
寛骨臼回転骨切り術は難度が高く、術者の技量が問われる。



まで、扱う疾患は幅広い。「迅速で的確な診断・治療」を基本方針に、痛みを抱えて来院した場合には、原因を突き止め、速やかに痛みを取り除くことに力を入れる。

「腰痛治療は当院の得意とするところです。椎間板ヘルニアなら、多くの方がブロック注射で症状が改善しています。また、脊柱管狭窄症と椎間板ヘルニア以外の通常の腰痛ではエクササイズがとても重要になるため、その方法も指導しています。腰痛の原因に応じて、指圧やストレッチで腸腰筋を緩めて痛みを取り除いたり、X線上一問題があれば、姿勢を保つベルトを装着してもらったり、痛みの強い場合、ブロック注射を追加しながら、すぐに動けるように治療を進めていきます」

慢性腰痛の場合、マッケンジー療



人工股関節

関節手術を行いました。手術は私が行いますが、入院中に診てい

法により理学療法を行います。同院には肩の痛みを抱えて来院する患者も多く、生理食塩水と局麻剤を関節内に入れて癒着を解放する「パンピング療法」で痛みの除去に努める。さらに従来のヒアルロン酸注射についても豊富なバリエーションをもつ。膝の痛みに関しては、変形性膝関節症であればヒアルロン酸を関節内に、ステロイドを関節外に注射し、装具の装着とエクササイズを組み合わせることで症状を改善させている。また、半月板や靭帯損傷でも、炎症止めの注射やステロイド、装具の組み合わせて症状が改善し、手術をせずに済むケースもあるという。

平成横浜病院と連携し質の高い手術を実施

いしずえ整形外科ではこのように、多くの患者が望む保存療法に力を入れながら、同じ戸塚区にある平成横浜病院と緊密に連携し、人工股関節・膝関節および股関節の骨切り術でも高い実績を上げている。

「2014年は2施設で121件の



■マッケンジー療法
腰や首の椎間板ヘルニアに有効な自宅などで行なえるエクササイズ

ただく平成横浜病院の常勤医師に当院でも診察を行ってもらうことで、患者さんが不安を感じずスムーズに入院できる環境を作っています」

また、MRI検査が必要なケースについては、近隣の総合病院と連携して迅速に検査を行える体制を構築している。

「とはいえ近年の患者数の増加に伴い、自前のMRIを備える必要も出てきました。好評いただいている個々の症状に応じたオーダーメイドのリハビリテーションを行うためにも、より広く、より充実した設備をもつ医院のオープンを現在計画しているところですよ」

さらなる目標をめざし、大久保院長の挑戦が続く。

Hospital Data



いしずえ整形外科
大久保機能再建クリニック&リハビリテーション
所在地 横浜市戸塚区戸塚町16-12
フタバビル501
電話 045-881-1188
URL <http://www.ishizue-seikei.com>

名医に聞く!

股関節の痛みを手術により改善 進化する人工股関節置換術・骨切り術

人工股関節と 寛骨臼回転骨切り術

医療技術や手術器具の進歩により、人工関節はポピュラーな治療手段となりました。横浜市立大学や横浜南共済病院などで20年以上にわたって股関節疾患の患者さんを診て、人工股関節で2400ほどの症例数をもつ、いしずえ整形外科の大久保俊彦院長に股関節疾患の手術について伺いました。

人工股関節置換術が 患者の生活の質を向上

私は、20〜30年前の人工関節を入れた約400名の患者さんを調べましたが、入れ替えをしたのは15%未満で、人工関節の摩耗面がほとんどでした。近年、摩耗面の材質も改善され、なかなか擦り減らなくなっていますので、さらに長期の耐久性が期待できます。退院後の下肢の機能は、手術前の状態が大きく関係しており、厳しい筋力低下や、腰、反対側の膝の変形等の進行があると、関節の痛みがなくなるとも、十分な満足が得られません。手術前に、患者さんの状態をよく確認する必要があります。また、退院後に個々の患者さんの状態に応

じて、弱点を補正するエクササイズを行うと効果的です。

腰や膝などに悪影響が出ない状態で手術を受ける事とその後の適切な運動療法で、術後の生活の質を向上させる事が可能です。

自己の関節を温存する 寛骨臼回転骨切り術

股関節痛の原因が、日本人に多い臼蓋形成不全の時には、骨を切り、形を変えることで痛みや関節の変形を抑えることができます。骨切り術の最大のメリットは、痛みを取るだけではなく、本来の関節を温存し、変形の悪化を阻止することにあります。現在、施行している骨切り術は寛骨臼回転骨切り術（RAO）です。こ



関節を温存する寛骨臼回転骨切り術

の手術は、股関節のまわりをドーム状に骨切りし（くり抜き）、側方に回転させて固定し、骨頭を覆うようにします。そのため、骨盤側に本来の軟骨を持った屋根を作ることができ、解剖学的に理にかなった股関節を形成するので。

X線やCTを見て骨盤の特徴を把握し、全体に指標を決め、術前のシミュレーション通りに手術を行うことができます。骨切り術も進化してきました。

骨切り術は手術のタイミングが重要です。変形の初期に行うのはとても効果があり

ますが、関節変形が進み過ぎると効果は薄れます。変形初期の場合、患者さんの痛みは周期的で、痛みを見逃し手術のタイミングを逃す例も少なくありません。

人工関節は関節部の骨を全部取ってしまうことで自由に入られます。関節が壊れてしまった方には有効ですが、欠点として、術後の感染症やケガによる破損、人工物であるために骨との親密性が悪くなる可能性があります。

一方、骨切り術は、関節を温存する手術の為、感染や脱臼の心配もほぼありません。入院期間は人工関節より長くなりますが、特別なリハビリは不要で、骨癒合が進めば自然に下肢の機能が改善していきます。

いしずえ整形外科院長
NPO法人骨・
関節研究会代表

おおくぼ としひこ
大久保 俊彦 先生

DOCTOR



杏林大学医学部卒業後、
日本医科大学麻酔科、
横浜市立大学整形外科、
関東労災病院、大口東
総合病院整形外科部長、
西横浜国際総合病院関
節外科センター長を経て、
いしずえ整形外科を開院。